種のような種類を介してユモトマムシグサ群に類縁関係が求められるかもしれない。なお，堀田（1967,1969）は本種を九州のヒメテンナンショウ *A. sazensoo* と同じと考えているが，本種はヒメテンナンショウに比べると葉鞘部が長く，仏焔苞は小さくてしばしば緑色，紫色の場合も赤味がなく，筒部口辺は僅かであるが明らかに開出しており，それとははっきり異なる。

本種は今から30年ほど前に，故倉田悟先生によって発見されたものである。東京大学農学部（TOFO）に所蔵されている1949年採集の標本（倉田 603～604）には，先生の手で *A. kobayashii* という仮称の学名が与えられている。しかし，かって本種の自生地を教えていただいた時に伺ったところでは，先生はこの種小名を発表する意図がなかったらしく，記載するなら別の種小名をつけよとのことであった。そこで，本種は伊豆の自然をこよなく愛された先生を記念し，*A. kuratae* と命名したい。先生が歩かれた頃に比べると，伊豆の自然も山里もずいぶん変貌した。深緑の山が次第に少なくなっていく中で植物たちにいつまでも安住の地があるよう，今は幽明境を異にした先生と共に，心から祈らざるを得ない。

引　用　文　献

堀田　満（1967）．日本列島における植物地理の若干の問題，ミチューリン生物学研究 **3**: 122-135.　—— (1969). Taxonomy of the Family Araceae in Eastern Asia II（謄写刷）.　——（1974）．植物の進化生物学 III，植物の分布と分化 p. 290-291，東京三省堂.　J. Murata (1978) : A new species of *Arisaema* (Araceae) from Honshu, Japan. J. Jap. Bot. **53**: 84-86. H. Ohashi and J. Murata (1980) : Taxonomy of the Japanese *Arisaema* (Araceae). J. Fac. Sci. Univ. Tokyo, sect. III, Bot. 12(6) : 281-336.　笹村祥二（1963）．岩手県に於ける「てんなんしょう属」の分布，北陸の植物 12: 85-88.

Summary

The *Arisaema nikoense* group in Japan consists of three species, i.e. *A. nikoense*, *A. ogatae* and *A. kuratae*. *A. nikoense* is classified into four varieties, i.e. var. *nikoense*, var. *brevicollum*, var. *australe* and var. *ishizuchiense*. *A. kuratae* is distributed in Mt. Amagi-san of Izu-peninsula, and is well characterized by short peduncles and naviculate spathes.

□ 畔田翠山：**熊野産物志**（S. Kuroda: Natural History of Kumano district in Japan) pp. 187, 1980. 紀伊屋報社内　紀南文化財研究会（通信は田辺市中屋敷町57-1，真砂氏へ）¥3,000. 紀州藩の著名の本草家畔田翠山（1792-1859）の原本は1848年頃完成，未刊行。上野益三氏の序，真砂久哉氏のあとがきあり，地名と物産の総索引を付し刊行された。原本4巻のうち，第1・2巻が植物を扱う。（木村陽二郎）